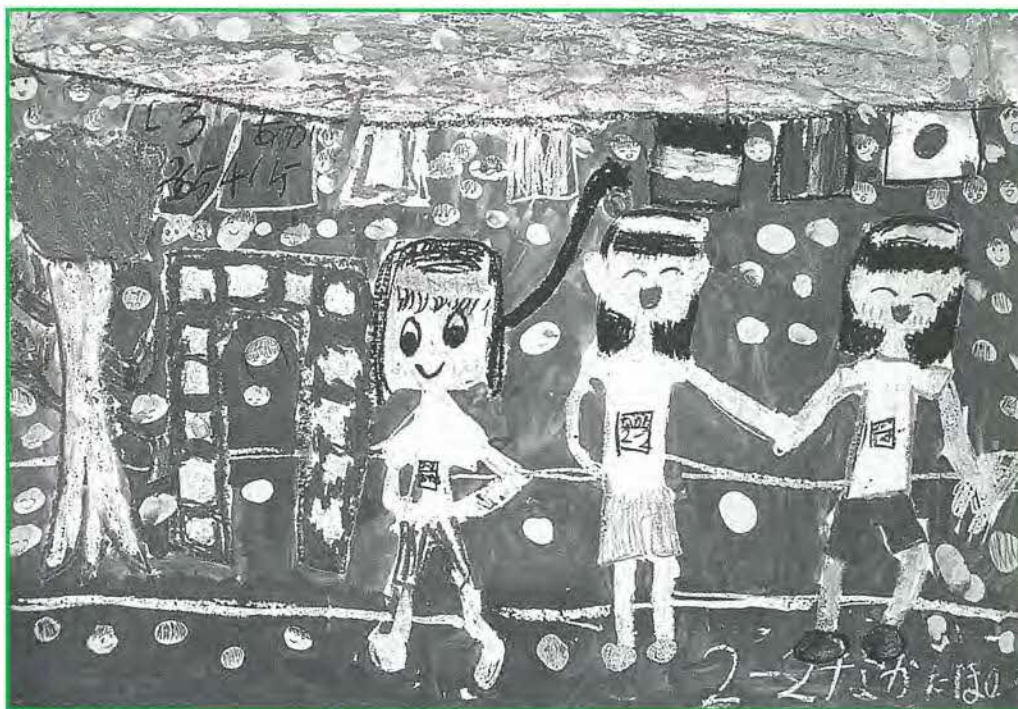


さくら

題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会 長 中 田 貢 弘
編 集 広 報 部 会
発 行 日 2007年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1



楽しかったリレー 栗原小2年 仲田帆花 作

目 次

民生委員制度90周年	2
優良民協表彰	3
全員研修会	4
成年後見制度	5
広報部座談会	6
子育て応援団	7
民事協だより	8
編集後記	



平素から、皆様には大変熱心にご活動いただき、心から感謝申し上げます。大規模な開発や新線の開通などで、足立区は現在かつて無いスピードでまちが変貌しております。社会基盤を充実させるとともに、安心、安全対策にも心をくばり、住みよい足立を実現して

いくことは、区長である私の使命の一つだと考えております。しかしながら、私たちが忘れてならないのは、将来を担う足立の子どもたちの教育に、今まで以上に真剣に取り組んでいかねばならないということです。

このところ、教育というと学力の面ばかり語られがちですが、一人ひとりの子どもが自らを肯定し、希望を持って生きていくためには、勉強ばかりでな

く、様々な学校行事、クラブ活動、ボランティア活動、地域参加活動などを通じて、各人の個性を引き出すための努力を惜しむわけにはいかず、それぞれの学校で校長が中心になり、大変熱心に取り組んでいただいております。

区といたしましても、学力はもちろんですが、子どもの心や体の健全な育成に力を入れて頑張っている学校を、ぜひとも応援してまいりたいと考えております。今回の一連の報道で、区民の皆様、特に公立学校に通う生徒の皆さんがどれだけ傷ついたかと思うと、お詫びの言葉もありません。今後とも、学校現場と区教育委員会が目標や課題を確実に共有して、ともに全力で取り組んで参ります。ぜひ先生方にも、それぞれの地域でご支援いただけますよう、心からお願い申し上げます。

足立区長 近藤 やい

天皇陛下のおことば

平成19年7月5日（木）日本武道館

本日、民生委員制度創設90周年を記念する全国民生委員児童委員大会が開催されることを、誠に喜ばしく思います。

本年は、大正6年笠井信一岡山県知事が、当時の県民の1割が悲惨な生活状態にあることを深く憂慮し、これらの人々の救済策として、済世顧問制度を創設してからちょうど90周年になります。またこの制度がつくられた翌年には林市蔵大阪府知事が貧しい人々の生活状況の調査や救済に当たる方面委員制度を発足させました。この方面委員制度は、昭和11年、全国的制度に発展し、戦後は民生委員制度として今日に受け継がれています。これらの制度が始められたころは福祉に対する社会の関心がまだ低く、恵まれない人々を救おうとした関係者の努力はいかばかりであったかと察せられます。

近年高齢化に伴う社会の変化によって、家族や地域社

会の絆（きずな）が弱まり、社会から孤立した人々の増える中で、民生委員・児童委員の仕事は、ますます重要性を増してきています。さらに、地震や台風などの災害が発生した場合の対応のために、民生委員・児童委員の日頃の努力の積み重ねが求められています。

現在、全国で22万人を超える民生委員・児童委員が、社会奉仕の精神をもって、助けを必要とする人々のために日夜尽力していることを、誠に心強く思います。どうか、今後とも、地域の人々の生活状態を含め細かく把握し、地域の人々の心身の支えとなつて、力を尽くされるよう願っております。

この記念大会が、全国の民生委員・児童委員が一層協力しあって国民の福祉の向上に努める契機となることを希望し、大会に寄せる言葉といたします。

大会宣言

東京都のホームページより



本日、ここ日本武道館において開催する民生委員制度創設90周年記念全国民生委員児童委員大会は、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、挙行することとなりました。本年は、大正6年の岡山県における済世顧問制度の創設から数えて90年目にあたります。

私たちの先達は、方面委員として救護法制定促進運動を、また、民生委員・児童委員として世帯厚生資金貸付制度の創設や心配ごと相談所運営を、さらに児童・家庭分野として、丈夫な子どもを育てる母親運動、心豊かな子どもを育てる運動、「地域の親子100人と知り合い、支え合おう」を推進するとともに、高齢者分野として、寝たきり高齢者の実態調査、孤独死高齢者ゼロ運動、在宅寝たきり高齢者の介護者実態調査、在宅認知症高齢者の介護者実態調査等を全国的に展開し、常に社会の課題と向き合い、地域の福祉の要としてたゆまぬ努力を重ね、国民の福祉の向上と発展のために貢献してまいりました。私たち民生委員・児童委員は、いつの世にあっても常に人の持つ温かさと奉仕の光を地域に届け、それぞれの時代の中で福祉を切り開いて

います。そして現在、認知症高齢者や障害のある人の消費者トラブル防止のための取り組み等を進めています。さらに、制度創設90周年記念事業の一環である「民生委員・児童委員発災害時一人も見逃さない運動」の推進等により、国民の誰もが安全に安心して暮らせるよう、地域の中で支え合い、助け合うコミュニティを大きく育ててゆく使命を持つ者として邁進しています。今、私たち民生委員・児童委員は人権擁護の理念に立脚し、この地域で住み続けたいという住民の願いの実現に向けた地域福祉を創造するために、次の100周年に向け、「広げよう地域に根ざした思いやり」行動宣言として次のことを明らかにします。

- 一、安心して往み続けることができる地域社会づくりに貢献します
- 一、地域社会での孤立・孤独をなくす運動を提案し行動します
- 一、児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みを進めます
- 一、多くの福祉課題を抱える生活困難家庭に粘り強く接し、地域社会とのつなぎ役を務めます
- 一、日頃の活動を活かし、災害特に要援護者の安否確認を行ないます

右、宣言します

平成19年7月5日

（原文のまま）

民生委員制度創設90周年
記念事業スローガン

**広げよう
地域に根ざした 思いやり**

民生委員制度創設 90 周年記念 全国民生児童委員大会に参加して

7月5日、民生委員制度創設90周年記念全国民生委員児童委員大会が、天皇・皇后両陛下ご臨席のもと日本武道館において全国各地より5,144名の民生・児童委員が集い、開催されました。天皇陛下よりお言葉を賜り、身も心もひきしめる思いになりました。天皇陛下が壇上に上り降りなさる時に、そっと皇后様の手をお取りになり互いに支えあって歩んだ自然のお姿も拝見できました。お出まし下さり、私どもはお迎えできる喜びを共に分かち合うことができました。

民生委員制度は大正6年以来90年を経て、この間、さまざまな制度・規定などが整えられました。そして数多くの研修、研鑽、親睦の積み重ねにより民生・児童委員の質の向上がありました。さまざまに生起する諸問題に対しては、地域社会の求めにより極めて広い

見識にて処してゆかねばならない点がありました。平素より足立区民生・児童委員協議会は思いやりの心、支え合いの心、みまもり合う心をもって地域と行政との橋渡しに心がけてきました。優良民生・児童委員協議会表彰をいただきましたのも中田会長の気配りと努力と行政の方がたの大きなご指導によるものと深く感謝いたします。

記念講演は服部栄養専門学校校長の服部幸應先生の食育に関するお話でした。その後大会宣言を唱し、1日目は終了いたしました。2日目は都内4ヶ所に分かれての研修会で、足立区は日本青年館において人権に配慮した高齢者の支援と民生委員の活動の講演会で、2日間の記念行事が無事終了いたしました。

(13地区会長 八木富美子 記)

足立区民生・児童委員協議会の「優良民生委員・児童委員協議会表彰」

受賞を祝う会が7月12日北千住シアター1010ギャラリーで行われました。区歌の合唱後、主催者代表の中田民生・児童委員協議会会長は、「足立区は過去の成績を反省し皆がいろいろ努力した結果が評価され、表彰されたのだと思う。今後とも近藤区長のもと、誠意をもって活動を進めたい」と話されました。

ご来賓の近藤区長より、「民生委員制度創設90周年



記念全国大会で表彰されたことは名誉なことであり改めてお祝い申し上げたい。今後とも心のこもった活動で足立区を守ってほしい」とのお言葉がありました。また、加藤足立区議会議長より表彰に対するお祝いの言葉と区長の進める安心と安全の街づくりを共に推進してほしいとのご挨拶がありました。また、谷東京都民生児童委員連合会副会長は、「日ごろの活動成果が報われ表彰されたことを祝いたく思う。また、中田会長のもとで虐待防止、生活保護など、住民の助けとなっていたきたい」と話されました。続いて、永田東京都福祉保健局生活福祉部長は、受賞のお祝いの言葉と「地域を結ぶ福祉のかけ橋となって、子どもの虐待防止などに心掛けてほしい」というお話がありました。その後、花束贈呈、全員合唱と進みなごやかなうちに宴を閉じました。

(19地区 大澤 稔 記)

みんせいかわらばん

Mさんは、DVで6年生の娘さんを連れて平成10年3月、夫（埼玉県在住）から逃げて足立区に越してきました。昼夜別のところで働き、所得は約16万円、家賃5万7千円。一生懸命頑張ったが子どもは寂しがるし、生活は苦しく、都営住宅に入居しようと申し込んだが資格は都内居住3年以上とのことで不可でした。ひざが悪く週1回の通院。正座はできないという状況で平成10年12月、私のところに相談に来ました。北部福祉事務所と連絡をとり児童扶養手当、育成手当の助成を受けることができました。その後、都住

に入居でき、娘さんの中学校卒業、高校入学、専門学校入学とその都度挨拶にみえました。娘さんの成人式で、お母さんが着た着物を着て、母娘で挨拶にいらした時にはうれしくて目頭を熱くしたものです。その後、都心の理容室に就職し元気に働いています。「私もやっと肩の荷が下りました」と母娘で報告にみえたときには本当にうれしく、9年間のつながりであったと感動いたしました。

私の民生・児童委員活動の中で宝石のような貴重な事例です。

(広報部員 K・M 記)



江北小1年 瀬尾文菜 作

足立区は活動記録提出100%継続を目指します

全員研修会に参加して

8月22日、例年にない酷暑の中、全員研修会が開催されました。高野第一合同会長の司会で始まり、第十一中学校の生徒さんによる吹奏楽の演奏は暑さを忘れさせてくれる素晴らしいものでした。主催者挨拶で中田会長より、「ご来賓の皆様には、暑い中をお集まりいただき誠にありがとうございます。活動記録の100%提出を32ヵ月続けている

のも皆様の協力の賜です。これからも役所の方とも協働で、頑張っていたきたい」とのお話がありました。近藤区長は、「豊かさを実感できる足立をつくる。格差をなくし対等のパートナーとし

て、区・民生委員・地域が一体となって協働していただければありがたい」とのお話でした。来賓のご挨拶と紹介の後、広報紙さくらの絵画協力児童への感謝状贈呈。10名ほど出席してくれた児童は区長より感謝状と握手をしていただきました。その後、東京都地域福祉推進課長筒井健治様による民生・児童委員協力員制度についての講話がありました。

第2部では宮崎忠様による「日本人の忘れ物」という題で、新渡戸稲造氏に関する武士道の話で「約束を守れ」「人はやさしくあれ」「親子、兄弟仲よくしろ」など、とても心にひびくお話で盛況のうちに終了しました。(11地区 須田陽子 記)



▲さくら掲載絵画の児童に感謝状を差し上げながらひとりひとり握手をしている近藤やよい区長



▲さくら掲載絵画の児童



▲すばらしい演奏の足立第十一中吹奏楽部

新しくお世話になります



柴田部長

管理職としては社会福祉協議会そして障害福祉担当の経験がありますが、福祉行政の奥の深さに、この一カ月は進んでは立ち止まりそして考えるという毎日を過ごしています。

福祉について漢和辞典を見ますと、「福」は神の恵みが豊かなことであり、「祉」は神が足を止めて恵みをもたらすことだそうです。

地域に根ざし、弱者に手を差し伸べている民生委員活動が福祉の原義にぴったりと当てはまるのには驚かされます。

これからの福祉は、皆様と協働して推進する以外にはないと強く思っていますので、今後のご指導の程宜しく願います。

(柴田 壽 福祉部長)



日比谷課長

今年8月1日付で、福祉管理課長になりました日比谷です。福祉部の経験は福祉事務所のケースワーカーを西部と中部とで7年、その後江戸川区で知的障がい者の施設長を1年、直近では17年度に高齢サービス課長を務めました。福祉の仕事は大変だけれども、興味があり、好きです。個人的には、児童福祉の研

究会に月に1度は通っております。足立区は、区民との協働を区政の基本に掲げており、民生・児童委員の皆様との仕事は「協働」のモデルです。このような仕事に携わることができ喜びと誇りを持って進めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(日比谷松夫 福祉管理課長)

民生委員・児童委員発

災害時一人も見逃さない運動

「成年後見制度はお金のある人が使う制度でしょ？」
「後見人をつけて財産管理してもらうほど財産ないよ」。
成年後見制度という、こんな声をよく耳にします。
成年後見人は財産管理が仕事というイメージが強いのだ



▲ 扇小5年 川浪 彩 作

だろうと思います。平成12年より制度が新しくなり、成年後見人は財産管理のほかに介護サービスや施設入所の契約あるいは医療に関する契約など本人の身

上に関わる手配をする義務が加わりました。

そこで、次のような制度利用もされています。認知症のある高齢者が自宅で一人暮らしをしています。何とか介護サービスを利用しながら自宅での生活を続けてきましたが、認知症が進み自宅での生活はそろそろ限界です。親族がいれば、親族に施設入所の手続きをしてもらい入所ということになるのですが、協力してもらえない親族がいないため、入所は困難です。そこで、成年後見人をつけ施設入所の手続きをしました。年金暮らしで、管理が必要なほどの財産はありませんが、生命、身体を守るのも成年後見制度の趣旨なのです。

(権利擁護センターあだち アルマルカウィ 恵子課長)

第57回 社会を明るくする運動 ミニ集会に出席して

夏の訪れと共に「社会を明るくする運動」の月間が始まり平素の犯罪防止、更生保護活動の協力呼びかけに「少年非行について」竹の塚警察署地域課長大内氏の講話がありました。非行の実態の要因について、非行とは犯罪に走る前兆現象であるとの認識の基に、その芽を取り除き健全育成に社会全体が取り組むことの必要性を強調されました。

非行を生む要因として

- 1 家庭環境における放任がある。家庭の中で育むべき善悪の判断の欠如があり、その教育がおろそかになっている。決まり事の躰がなされていない。子どもに対して慈しみの心を持って家庭、家族の温もりが大切である。注目されている事の大事さを教えるべきである。
- 2 学校環境においては、平等精神のはき違えが子どもの我慢、忍耐の欠如を生み、根本的な誤りを呼んでいる。問題発生には隠すことのないよう健全

育成に強い指導力が必要と考えている。

- 3 社会環境では、携帯電話・ゲーム機の発達により、子どもが自分の殻に閉じこ



▲ 新田小4年 五家紗由菜 作

もり、それが周囲（他人）とのかかわりを遮り、育むべき他人との社会感覚が損なわれ、人に対しての思いやりが不足している。社会全体に温故知新の心が求められる。集会には多数の人が詰めかけ関心の高さを示していた。

(花畑地区 細井力造 記)

大変お世話になりました

丸山
総務部長



◀ 元福祉部長

広報部よりの
花束を手に

元福祉管理課長 ▶



岡野
教育担当部長

教育分野でもがんばってください

中学生俳句・川柳コーナー

このない空から見える僕らの翼	雲動くすうと見せる青い空	日暮沈み白紙の答案にうめっこ	睡れた目を優しく包む親の背や	大空と儚い夢に手をのばす	負けた日の見上げる空はにじむ青
三年 松尾 崇寛	三年 細井 佑美	三年 車谷 駿一	三年 福田 静華	三年 吉田 智子	三年 小宮 杏菜

足立第九中学校

足立区の子育て支援は近年充実したものになりつつありますが、そのひとつに「子育てホームサポート」が注目されています。区の60時間の養成講座で認定されたサポーターは、皆ベテラン揃いです。出産直後自宅に赴いて家事支援・乳児の沐浴など、昔おばあちゃんがしてくれたことを手伝ってくれるのです。費用は区から半分補助がでるので負担が軽く評判も上々です。今回、区の委託事業所の一つ、「ワーカーズコープ」を訪問しました。依頼が多いのは出産後体調が回復しない母親からとのことでした。ある母親は「育児や家事が負担になり、低学年の子の送迎がままならない」。またたくさんある依頼の中で心に残ったのは、母親を亡くした女の子のいる父子家庭にサポーターが行った時

のことです。最初は泣いてばかりいた女の子も、今やサポーターさんが母親代わりで、元気な絵を事務所に描いてくれたり、「卒業式には出席するね」と約束もしているとのことでした。事務所に貼られたその子の大根の絵は、スクスク育つ女の子の力強さを感じました。心にしみるサポートは多くの安心と期待を担ってくれることでしょう。

頑張れサポーター、スクスク育て、大根の葉。

(10地区 川島恵美子 記)



た 報 部 座 談 会

司会 お集まりいただきありがとうございます。創刊号より14号までの広報紙作りをふりかえり、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

平田 私は最初、都民連の広報をやるように言われ3年間やってきました。その流れで「さくら」をやることになりました。

宮本 「さくら」の表紙とカットの絵を小学校にお願いしたことは大成功だったと思います。学校が協力してくださり、たくさんの子どもの絵が集まり、選ぶのに苦労したくらいです。表紙の絵のおかげで、やわらかい雰囲気になったと思います。

司会 最初はお互いによく知らなかったわけですが、広報紙を作っていくために、どのような努力をされたのでしょうか。私の場合は、部会だけではまともず、編集部員同士で集まり、意見交換したりしてきました。そのことが広報紙作りをスムーズにさせ、効果をあげてくれたように思えます。

田中 校正の方は、あがってきた原稿をチェックしていくのですが、皆さんの考え方の違いもあり、一本にまとめるのが大変でした。漢字ひとつ、送りかなひとつとってみてもいろいろ決まりがあり、いちいち辞書と首つびきでした。

野辺 苦労とは思わなかったんですが、私たちが一番最初ということで、試行錯誤で進め、いつの間にかここまで来という感じです。部会は9時半始まりで、こんなに早いというのも珍しいと思いつつも、何十回も出席しているうちに、皆さんと本当に親しくなれたんです。足立区全体の委員さんと知り合えるなんて、あまりないことですものね。それだけでも良かったと思っています。

高野 創刊号からの参加ですが、最初は雲をつかむようでした。4号あたりから、編集と校正に分かれて進めた結果、活動も急に発展していったと思います。皆さんにご苦労いただいて、中身の濃いものにな

って来たと思うんです。中田連台会長さんのお褒めにあずかることができるような充実した記事が出せるようになってきたわけですね。10号あたりから皆さんのチームワークがとても素晴らしくなり、出席率も大変良くなりました。

松本 民生委員になって1期目からの広報で、民生も広報も初めてだったんです。PTAのときに1年間やったくらいでしたが、こんな私でも2期無事に務めることができました。正直言って、朝9時半までにここに来るのは大変なんですけれど、やっぱり来て楽しいから、足が向くんだらうなと思っています。

司会 だんだんに連帯感が芽生えてきて、皆さんとざっくばらんに話ができるようになっていたわけですね。こういう自由な雰囲気の中からもいろいろな意見が導き出されるようになっていったんですね。

大沢 2期5年お世話になりました。私も経験が全くなくて、夢中でやってきました。打ち込みをお手伝いさせていただきましたが、お役に立てたかなということですね。

川島 私は途中からで、今の素晴らしい形になっているところに入ってきました。活字になるという責任感がありました。今まで、ボヤッとしていたけれど、介護のことなども、真剣に考えるようになりました。パソコンも子どもに教えてもらいながら、少しずつできるようになりました。

(注：川島さんは打ち込み担当)



子育て応援団・がんばる主任児童委員

私たち主任児童委員は、昨年一昨年と2度に渡って東久留米市にある都立荻山実務学校と青梅にある都立誠明学園にて研修してまいりました。どちらの施設を見学してみてもとても素晴らしい環境の中で子どもたちが生活できるようになっていました。「できればこのような施設に入らなくて済むなら!」と思いました。現代の子どもたちは小さな時から、いろいろなことを背負って生活していると思います。現在学童保育所で仕事をさせていただいておりますが、この点について実感する毎日です。このようなことにならないために私たち大人は何をすべきか、何ができるのか? を考えるよい機会だったと思います。どちらの施設にも言え

ることは足立区の子どもたちが大変お世話になっているということです。「足立区の子どもたちはお得意様です」といわれた言葉が心に引っ掛りました。3年目に入ったばかりの私に何ができるのか考えさせられた場面でもありました。日ごろから子どもたちへの見守りやコミュニケーションをとっていく地域の目や関心がいかに大切かということも感じました。

民生・児童委員の皆様とともに協力し合い地域の子子どもたちがのびのびと安心して生活できるよう微力ながら応援していきたいと思っています。

(常東地区 主任児童委員 高本妙子 記)

14号までを振り返って

森脇 楽しかった。やっているうちに、アンテナを張ってニュースを吸収していく習慣がついてきたと思う。原稿集めも勉強しながら積極的にやることができるようになりました。

司会 地域活動でも、常に態勢がとれていたのも、何かニュースソースはないかという時も、すぐに出てくるんですね。

森脇 いやいや。長すぎる文でもきちんと入るようにまとめて下さった校正の方には改めて感謝しております。

大城 チームワークが結構よかったんですね。

内藤 伝えようとする気持ちを残して縮めていくのは難しい。

山崎 右も左もわからないで来ましたが、校正は大変でしたね。

宮本 原稿の足りないときは、何人かにお願いすると出てくる。森脇さん、須田さん、野辺さん、前にいらした中島さん、安藤さん、助かりました。ドラえもんの四次元ポケットのように。必ずネタをお持ちなんですよ。この方たちは……。

司会 アンテナの張り方が違うのかな。

宮本 これらの方が辞めてしまうと大変ですね。でも広報委員を退任されても、原稿をいただけるとうれしいですね。

野辺 最近のことになりますが、でき上がった広報紙を見ながら、ここは良かった、ここはこうした方が良かったという反省が少なくなってきたようですが、あれをやればもっともっと良い「さくら」になっていくのではないがしら。

加藤 私、長くこれに関係した仕事をしていたんですが、広報部員になったからには一生懸命にやらなくてはと思いました。なにしろ10年程のプランクがあったので心配でした。でも皆で経験を積みながら成長していかなければならないも

のですし……。それにしても編集長、最高ですよ! (笑い)

司会 私の性格として、陰で支える方が合っている。それが表に出るとダメなんです。

加藤 そんなことないですよ。

司会 編集長になってから、辞任届を出したんですが、平田部長から未だに返事がない(笑い)。私の顔を見ると、そっぽを向いちゃって。でも今までやってきました。

森脇 よかったネ。本当に落ち込んでいる時があったんですから。

加藤 これからのことについては、野辺さんがおっしゃったように、でき上がったものに必ず、30分でも反省会をした方が良いと思います。

司会 そうですね。向上ということを考えて。

加藤 それから校正の人達で、力ネ使いの統一をした一覧表を作りましたので、置いていきます。そして、校正は2班に分かれて行い、最後に読み合わせをする方法が良いと思うのですが。

田中 編集の方は、部会以外に集まって編集会議をしていただいていた。やはり校正の方も、発行ごとに1回でもいいから校正会議(加藤さんが発言したように最終読み合わせ)が必要かなと思いました。

司会 私5年経験してきましたが、最初はズブの素人でしたから、新しい方には、私たちの経験をお話できればよろしいのではないかと思います。それが使命だと思います。いろいろとご意見ありがとうございました。これを糧によりよい広報誌「さくら」作りに励んでまいりたいと思います。

退任者一同 ますますの発展をお祈りいたします。

司会 皆さん、本日はありがとうございました。

(司会 細井力造)

民生・児童委員協議会からのお知らせ

日程	会議名	場所
11月5日(月)	専門部会代表者会議	庁舎ホール
11月10日(土)	ミュージカル「坊ちゃん」	シアター1010
11月12日(月)	会長協議会	区役所13階会議室
11月13日(火)～16日(金)	合同地区民協	区役所13階会議室
12月10日(月)	会長協議会	区役所13階会議室
12月13日(木)	委嘱状伝達式	西新井文化ホール
12月27日(木)	感謝状贈呈式	区役所会議室
20年1月15日(火)	会長協議会(新年会)	中田屋(予定)
1月期	合同地区民協(新年会)	各地区指定場所
2月12日(火)	会長協議会(受賞者祝賀会)	綾瀬ブルミエ

さくらにゅーす

虹の広場に2,000の和風が舞う

今年もやってきました「足立風まつり」。夏休みの親子の宿題を大空に揚げようと、8回目を迎えた9月8日、荒川河川敷に沢山の親子が集いました。近藤区長はじめ多くの来賓の方がたが見守り、審査する中で空を見上げ、風を見つめる親子の瞳はきらきら輝いていました。参加小学校74校、3,200名の参加人員で、なかでも群馬県の宮城小学校は毎年の参加。回を重ねるごとに盛大になっていく足立風まつりに、和太鼓演奏、龍神太鼓演奏、ブラスバンドの演奏などが華を添え、大空からはキャンデーが蒔かれたりして、みんなの笑顔が弾けます。入賞した風は区役所のロビーに展示されるそうです。風を修理してくれる風の病院もあって、苦労して作った風を大事そうに胸に抱えて散会となりました。親子ボランティアなど多くの皆様、本当にご苦労さまでした。(4地区 大久保義子 記)

道路探検隊に参加

8月23日国土交通省主催の「青少年道路探検隊」に千住柳町住区センターに集う子どもたち約30名と一緒に参加してきました。これは国土交通省が道路の働きやその下で進められている事業などを子どもたちに知ってもらうために毎年企画されているイベントです。中でも圧巻だったのは地下40メートルにある「日比谷共同溝」の見学です。地下の巨大なトンネルにライフラインをすべて入れてしまおうという事業で、一般には見学できません。ヘルメットをかぶり、みんな緊張気味に下りて行きました。少しはめをはずす場面もありましたが、夏休みの良い思い出をつくれたのではないかと思います。(5地区 主任児童委員 正田規子 記)



編集後記

広報紙「さくら」もまもなく発行5年になります。広報紙を手にした方全員にお読みいただけるような紙面でありたい。また、民生・児童委員の知識を広げる手助けとなれるような、情報と地域の活動を8ページ

に掲載しております。12月より広報部員の半数が新部員になり、さらに充実した広報紙を目指します。今後とも愛読いただけますようお願いいたします。(広報部員 塩田博子 記)

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、

第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

■皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)。次号発行予定日 平成20年3月1日
原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報部会	部長		副部長		会計	書記		編集	校正	編集委員	校正委員		小菅	大久保	松本	大城	山崎	内藤	加藤	野田	下田
	平田	高野	宮本	須田		飯田	大澤				渡邊	川島									
	幹明	勝幸	勝男	陽子		泉節	稔		力造	榮一	正勝	恵美子	千恵子	中恵子	博昭	義子	忠男	久勝	喜代子	陽子	尚保